

# 伊勢国府跡 3

2001年 3月

鈴鹿市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、国庫・県費補助事業として鈴鹿市教育委員会が2000（平成12）年度に実施した長者屋敷遺跡ほか発掘調査等事業のうち伊勢国府跡（長者屋敷遺跡・第12次）の調査概要をまとめたものである。

2. 発掘調査は以下の体制で実施した。

調査主体 鈴鹿市教育委員会（教育長 山下 健）  
 調査指導 川越俊一（奈良国立文化財研究所）  
 高瀬要一（奈良国立文化財研究所）  
 八賀 晋（三重大学名誉教授）  
 渡辺 寛（皇學館大學教授）  
 文化庁文化財保護部記念物課  
 三重県教育委員会生涯学習課文化財保護室  
 三重県埋蔵文化財センター  
 調査担当 鈴鹿市考古博物館  
 組織及び構成 参事兼鈴鹿市考古博物館長 林 銀哉  
 副参事兼埋蔵文化財係長 中森成行  
 埋蔵文化財係指導主事 岡田雅幸  
 副主査 新田 剛  
 事務吏員 河村みゆき  
 嘱託 吉田真由美 林 和範 石田浩司

3. 調査を実施した箇所及び面積は以下のとおりである。

Tab. 1 調査区一覧

地区記号	所在地	面積㎡
6 A H E - B	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1 2 2 6 番	207.9
6 A H I - C F	三重県鈴鹿市広瀬町字中起1 2 2 9 番 1	138
6 A I D - C	三重県鈴鹿市広瀬町字荒子1 0 1 8 番 1, 1 0 2 0 番 1	259
6 A I D - D	三重県鈴鹿市広瀬町字荒子1 0 1 7 番	95.1
6 A I D - E	三重県鈴鹿市広瀬町字荒子1 0 1 6 番	155.8
6 A I D - H	三重県鈴鹿市広瀬町字荒子1 0 1 3 番 1	287
合 計		1,142.8

4. 調査期間は2000年10月9日から2001年3月11日までである。

5. 現地調査は前記係員のうち主に新田・吉田が担当した。

6. 本書の編集・執筆は新田が担当した。

7. 調査参加者は以下のとおりである。

〔現地調査〕江藤栄生・江藤経子・小河茂・小河清角・鈴木義孝・伴安治・水野ひさ子・水野豊・森明

〔屋内整理・事務〕片岡貴美子・加城陽子・神田梢・杉本恭子・真鈴川千津子・川北雅

8. Plate 1 では、国土地理院発行1：50,000四日市・亀山の一部を使用した。

9. 今回検出した遺構は以下のとおりである。

Tab. 2 遺構一覧

S B ; 掘立柱建物	S T ; 竪穴住居	S D ; 溝
1 1 3 A ・ 1 1 3 B ・ 1 1 5	1 0 6	1 0 4 ・ 1 0 5 ・ 1 1 2 ・ 1 1 4



10. 座標は国土座標第Ⅵ系を用いた。図中の方位は座標北を示す。
11. 調査区は必要に応じ、3 mグリッドに分割し、北西のX・Y座標から下3桁を組み合わせてグリッド名とした。

例) X=-123981・Y=45608の場合、981・608

12. 柱穴は遺構番号に枝番を付して個々の名称とした。例) SB113A-1
13. 本調査にかかる遺物・図面・写真は全て鈴鹿市考古博物館が保管している。

調査及び報告書刊行にあたっては上記指導委員の先生方の他に地権者ならびに地元各位をはじめ下記の方々のお世話になりました。記して感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

麻生直・田中清治・谷川次雄・長尾光博・森敏彦・広瀬町自治会・西富田町自治会・中富田町の山自治会・中富田町の町自治会

石毛彩子・岡田登・坂井秀弥・杉谷政樹・竹内英明・谷本鋭次・辻公則・林弘之・前田清彦・水橋公恵・村山邦彦・山澤義貴・山田猛・山中章・山中敏史

## 本文目次

I. はじめに	1	Ⅲ. まとめ	4
II. 遺構と遺物	2	英文目次・要旨	8

## 挿図目次

Fig. 1 政庁の建物配置(1:1,000)	5	Fig. 2 掘立柱建物の変遷 (1:200)	6
-------------------------	---	-------------------------	---

## 表目次

Tab. 1 調査区一覧	i	Tab. 3 調査履歴	1
Tab. 2 遺構一覧	i	Tab. 4 報告書抄録	29

## 図版目次

Plate 1 周辺の遺跡(1:100,000)	9	Plate 12 丸瓦・平瓦・鬼瓦・土師器・須恵器(1:4)	22
Plate 2 調査区位置図(1:5,000)	10	Plate 13 溝 SD104・105/溝 SD104 土層断面	23
Plate 3 調査区位置図(1:1,000)	11	Plate 14 溝 SD105 土層断面/須恵器小壺出土状況	24
Plate 4 6AHI-C・F区平面図(1:300)	13	Plate 15 溝 SD114 検出状況/溝 SD104・105 遠景	25
Plate 5 溝 SD104・105・114 平面図 (1:100)	14	溝 SD104・105 土層断面/6AHE-B区/	
Plate 6 溝 SD104・105・112 土層断面図 (1:50)	15	指導委員会	25
Plate 7 6AHE-B区平面図 (1:200)	16	Plate 16 竪穴住居 ST106/竪穴住居 ST106 竈/溝	26
Plate 8 6AID-C・D・E・H区平面図 (1:400)	17	SD112/溝 SD112 土層断面/6AID-H区作	
Plate 9 竪穴住居ST106 平面図 (1:50)	18	業風景	26
Plate 10 掘立柱建物 SB113A・B・115 平面図・断面図	19	Plate 17 掘立柱建物 SB113/掘立柱建物 SB113	27
(1:80)		Plate 18 6AID-E区作業風景/柱穴No.10・50/柱穴	28
Plate 11 竪穴住居 ST106・掘立柱建物柱穴土層断面	21	No.8 断ち割り/現地説明会/平瓦/鬼瓦/	
図 (1:50)		丸瓦/土師器・須恵器	28

# I. はじめに

鈴鹿山麓から東に広がる台地には扇状地が発達している。内部川を軸として展開する水沢扇状地では、地下深部を流れる伏流水を利用するため近代以降“マンボ”と呼ばれる地下灌漑施設が開削され、可耕地が拡大した。表層は水はけの良いクロボク土壤に覆われ、市域西部を中心に植木栽培が盛んである。

水沢扇状地の南端には、鈴鹿川によって削られた見晴らしの良い段丘が続く。長者屋敷遺跡は段丘崖から400mほど奥まった平坦地に位置し、台地縁辺に密集する他の遺跡とは立地条件を異にしている。

遺跡の範囲はおおよそ東西600m・南北800mである。遺跡内における最も古い遺物は後期旧石器時代に遡り、続く縄文時代の石器や土器も散見され、

新しくは中・近世陶器が少量認められる。明確な遺構を伴うのは国府関連の奈良・平安時代に限られ、鈴鹿川流域において分布を密にする古墳も当遺跡の近在では稀薄である。

長者屋敷遺跡の本格的な発掘調査は昭和32(1957)年の藤岡謙二郎らによる調査を嚆矢とし、国・県の補助を受けた鈴鹿市教育委員会による範囲確認調査は平成4(1992)年度に始まった。その後の数次にわたる緊急調査も含めて今回は第12次を数え、学術調査としては9年目となった。

政庁南門の発見により政庁院の南北規模がほぼ確定した前回の調査に引き続き、今年度はさらに政庁周辺における官衙遺構の広がりを探ることとした。

Tab.3 調査履歴

次数	調査年度	調査区記号	所在地	調査期間	面積	調査原因	概要
プレ1次	1957	A地点 B地点	広瀬町字南野 広瀬町字矢下			学術	礎石建物 基壇
1次	1992	長塚1 南野1 荒子1	広瀬町字長塚1247, 1248 広瀬町字南野971 広瀬町字荒子981		110.0 115.0 110.0	学術	礎敷き遺構 礎石建物 瓦溜・溝
2次	1993	6AHI-F 6AJA-A-1 6AJA-A-2 6AJA-A-3 6AJA-D 6AJD-A	広瀬町字中起1226 広瀬町字矢下1134 広瀬町字矢下1134 広瀬町字矢下1137 広瀬町字矢下1140 広瀬町字矢下1141		62.0 38.0 33.0 18.0 32.0 55.0	学術	政庁西外溝 政庁後殿・軒廊 政庁後殿 政庁東隅楼 政庁東内溝・東外溝 政庁東内溝・東外溝
3次	1994	6AJA-A-4 6AJA-J	広瀬町字矢下1132, 1133 広瀬町字矢下1131	941006~941227	750.0	学術	政庁西脇殿・正殿・西軒廊 政庁西脇殿・西内溝・西外溝
3-2次	1994	県調査区	広瀬町字仲土居, 亀山市能褒野町字仲土居	940601~940817	2,700.0	県緊急	溝
4次	1995	6AJA-A-5 6AJA-A-5 6AHI-B	広瀬町字矢下1132, 1133 広瀬町字荒子1135 広瀬町字中起1227-1	950920~951219	254.0	学術	政庁西内溝・西隅楼 政庁後殿 政庁北外溝
4-2次	1995	県調査区	広瀬町字仲土居, 亀山市能褒野町字仲土居	950605~950713	1,600.0	県緊急	溝
5次	1996		広瀬町字丸内	960620~960716	133.0	市緊急	竪穴住居・溝
6次	1996		広瀬町字矢下	960625~960719	288.0	市緊急	溝
7次	1996	6AGE-A	広瀬町字南野972, 972-1, 972-2, 973	9601007~970121	580.0	学術	掘立柱建物・礎石建物・溝
8次	1997	6AFB-A	広瀬町字長塚1279-2		632.0	学術	倒壊瓦・礎石建物・溝
9次	1997	A地区 B地区 C地区	広瀬町字矢下 広瀬町字矢下 広瀬町字中起	980223~980320	21.0 26.0 5.0	市緊急	政庁南辺部 政庁西脇殿 溝
10次	1998	6AFB-B	広瀬町字長塚1279-3, 1279-5	980901~981228	1,014.2	学術	礎石建物・溝・土坑
11次	1999	6AJA-H 6AJA-FG 6AJC-A 6AJC-D	広瀬町字矢下1176 広瀬町字矢下1175, 1176-1 広瀬町字矢下1093 広瀬町字矢下1130	990901~000131	188.4 91.5 332.8 250.3	学術	溝 遺構なし 溝・礎石建物 南門
12次	2000	6AHI-CF 6AHE-B 6AID-C 6AID-D 6AID-E 6AID-H	広瀬町字中起1226 広瀬町字中起1229-1 広瀬町字荒子1018, 1020-1 広瀬町字荒子1017 広瀬町字荒子1016 広瀬町字荒子1013-1	001001~010311	207.9 138.0 259.0 95.1 155.8 287.0	学術	溝 遺構なし 竪穴住居・溝 掘立柱建物 掘立柱建物 掘立柱建物・溝
合計					10,582.0		



## II. 遺構と遺物

### 1. 基本層序

基本層序は以下のとおりである。

I層：表土・耕作土。

II層：クロボク土。

III層：漸移層。

IV層：褐色砂質シルト層。いわゆる地山。

V層：黄褐色砂質シルト層。

VI層：砂礫混じり黄褐色砂質シルト層。

II層はほとんど残存していなかったため、遺構検出はIII層ないしはIV層上面において実施した。後述するST106やSB113の掘り方はIV・V層中に達し、SD104・105・112はVI層中まで掘り込まれる。

### 2. 政庁西方地区(6AHI-CF区) (Plate 4)

南北溝SD104・105とSD104に連続する東西溝SD114が検出された。SD104・105については南北9mほどを完掘し、SD114を含む6AHI-C-2区では遺構検出面における平面観察のみにとどめた。6AHI-F-2区では遺構は全く確認されず、同じくF-3・4区では遺構の有無が確認できなかった。

**溝SD104** (Plate 5) 検出面での幅2.2~2.8m, 地表面からの深さ75cm。直線的に掘られた南北溝で、深さはほぼ一定する。埋土はクロボクを主体とする。最上層はしまりのない暗褐色土, 続く上層はしまりのあるクロボク土, 中層は西から流れ込む黄褐色土, 下層はクロボクからなる (Plate 6)。最上層・中層の下面に不連続な境界が認められる。

上層から丸瓦・平瓦が, 中層から丸瓦・平瓦・IA3型式と思われる軒丸瓦・須恵器小壺が, 下層からは丸瓦・平瓦が出土したが, 政庁築地に伴う溝に比べて出土量は非常に少ない。

**丸瓦** (Plate12-1) 下層出土。長さ402mm以上, 幅164mm, 高さ82mm。体部凸面はタテに調整され, 玉縁部から体部の一部にかけてはヨコに調整される。半裁面は未調整である。淡橙褐色を呈し, 硬く焼かれている。政庁域のみに認められる細形のタイプである。

**須恵器小壺** (Plate12-7) 中層の直上約5cmほど上から須恵器小壺が出土した。底径67mm, 現存器高52mm。体部及び底部の残りは良く, 口端部を除いてほぼ完形復元可能な資料である。分厚い底部に低い角高台

が付く。体部下位はケズリ調整され, 底部には糸切り痕が残存する。淡橙灰色を呈し, 軟質。

**溝SD105** (Plate 5) 検出面での幅1.6~1.9m, 地表面からの深さ80cm。SD104の西約3.6m離れて平行する南北溝。埋土の特徴はSD104に酷似し, 中位の黄褐色土は東側から流れ込む。

中層から丸瓦・平瓦・土師器が, 下層から平瓦・IA1もしくはIA2型式と思われる軒丸瓦が出土した。**平瓦** (Plate12-2) 下層出土。幅220mm以上, 厚さ20mmで, 硬質。側縁部は3面に面取りされ, 凹面はヨコ方向に調整され, 凸面には縄叩き痕が残る。凸面狭端近くには横位に長さ23mm, 幅5mm, 深さ1mmの陰刻が認められる。過去の調査でも同様のものが出土しており, 凹面の調整に使用される台の形状に由来するものと考えられる。陽刻のものも含め, 数種類知られ, 政庁域のみで出土する小型のものにのみ認められる。

**溝SD114** (Plate 4) SD104に連続する東西溝。遺構のごく一部のみが検出された。

### 3. 政庁北西地区(6AHE-B区) (Plate 7)

調査前から遺物散布が稀薄な地点と認識されていた場所である。調査の結果, 遺構は全く検出されず, 瓦片が1点出土したのみである。

### 4. 政庁北東地区(6AID-CDEH区) (Plate 8)

瓦の散布は稀薄であるものの, 土器片の散布が稀な当遺跡にあつては土師器・須恵器片が比較的多く分布する地域である。地表から遺構検出面までの深さは, C区で22~33cm, D区で25~33cm, E区で26~33cm, H区で29~37cmである。

**竪穴住居ST106** (Plate 9) 政庁の北東約70mから検出された。座標北に対して西辺はN 6°13' E, 東辺はN 7°36' E, 北辺はN 88°49' E, 南辺はN 91°41' Eである。したがって平面形は平行四辺形に近い。南北5.6m・東西5.0mで, 地表から床面までの深さは35cmである。東辺に竈を有し, 中央部・南東隅などに土坑を有する。中央の土坑SK107は径1.5m程の略円形を呈し, 炭化物を含む。支柱穴ははっきりせず, 南辺付近で1カ所小穴が見られたのみである。



鬼瓦などの瓦片や土師器・須恵器が埋土から出土し、竈付近からは良好な土師器・須恵器が得られた。鬼瓦 (Plate12-3) 上層出土。現存最大厚50mm。鼻から口にかけての破片。鼻は穿孔された鼻孔のみ残存し、向かって右の上牙及び下牙の端部と思われる部分をかろうじてとどめる。上歯は剥離し、下歯の表現は無い。淡褐色を呈し、軟質。当遺跡において鬼瓦は南野地点で1点、長塚地点で6点出土しており、今回の資料も含め全て同範と考えられる。

**土師器蓋** (Plate12-4) 竈付近出土。推定口径196mm・器高34mm・つまみ径50mm。橙褐色を呈し、胎土精良。つまみは柱状をなし、口端部は屈曲することもなく、丸く収まる。外面はミガキ調整される。

**土師器皿** (Plate12-5) 上層出土。推定口径167mm・器高24mm。橙褐色を呈し、胎土精良。口端部はやや丸みを帯びた矩形をなす。外面はナデ仕上げ。

**須恵器坏** (Plate12-6) 竈付近出土。推定口径142mm・推定底径112mm・器高37mm。赤褐色を呈し、焼成は堅緻。竈付近出土で、接合した破片の一つは被熱のためか変色している。腰部は明確に稜をなし、丸みを帯びた角高台を有する。

**須恵器瓶** (Plate12-7) 上層出土。底径91mm。長頸瓶の底部破片と考えられる。胎土は粗い。外面及び破損面に漆状の黒色樹脂が付着する。

**掘立柱建物SB113** (Plate10・6頁Fig.2) 竪穴住居ST106の南から検出された。柱穴の切り合い関係により、同一場所での立て替えと見られるSB113AからSB113Bへの変遷が窺える。

**SB113A** 竪穴住居ST106の南約13mに位置する梁行2間・桁行7間の東西棟建物である。柱穴は方形を呈し、一辺90cm前後のものが多い。柱穴No44で地表から約1m掘り込まれている。柱痕はNo37・38・42・43・44で確認され、径は18~24cm程度である。立て替え後の柱穴に切られるNo.9~16・45・46では柱痕の確認に至らなかった。南北方向の裁ち割りを実施したNo45では、柱の抜き取りによると見られる掘り込みが断面観察された。東西規模はNo37-44間で20.9m、南北は約5.7mである。柱間は梁行が2.7~2.8m程と思われ、桁行はNo37-38間及び43-44間が3.1m、42-43間が2.6mである。南平No37-44間から導き出される座標北に対する傾きはN8°16'E

である。No15・44から土師器片が出土している。

**SB113B** 113Aの北平側柱をほぼ同一場所で据え直し、妻中央及び南平の側柱を南へずらして建て直し、さらに南北に1間ずつ拡張して、4間×7間の四面庇建物に変更している。身舎中央には棟持ちあるいは床束状の柱穴が2カ所設けられている。柱穴は隅丸方形や楕円形のものがあり、一辺ないし径はおおむね50~60cmである。柱穴No.8は地表から80cm掘り込まれる。身舎中央のNo48は、桁行方向に長軸を取る長方形を呈する。柱痕は、検出されたすべての柱穴で明瞭に観察され、径16~20cmである。東西規模は、柱穴No.1-8間で20.7m、No49-56間で20.8m、No.17-20間で20.9mである。南北規模は、No.2-30間他すべて12.6mである。柱間は、桁行が2.8~3.2m、梁行庇が2.8~3.0m、身舎が3.3~3.5mである。棟持ち柱No47-48間は5.5mで、No18-47は4.5m、No48-19は4.7mである。座標北に対する傾きは、No.17-20間でN7°26'E、No.1-8間でN7°56'Eである。柱穴No47柱痕から土師器片が出土した。

**掘立柱建物SB115** SB113東妻から約3m離れ、ほぼ柱通りを揃えて検出された。SB113に付加されたものか、別の構造物であるのか不明である。柱穴は隅丸方形または長円形を呈し、長軸で54cmを測り、地表から53cm掘り込まれる。柱痕径は17~21cmである。柱穴No57-58間は2.7mで、座標北に対する傾きはN9°11'Eである。

**溝SD112** (Plate8) 6AID-C・H区の東半において検出された南北溝である。同C区においてのみ遺構の一部を掘り下げた。幅15.7mで、地表面からの深さは1.2mである。埋土はクロボクからなり、近世以降の遺物を含む上層と古代の遺物を含む下層に大別される。西辺は緩やかに立ち上がるため、溝の肩はやや不明確である。遺構底面を中心に瓦片の出土が少量認められた。



### Ⅲ. まとめ

#### 1. 「政庁西院」

南門の確認により、政庁域の確定を果たした前回の調査を受け、今回は政庁周辺における遺構の広がり追求した。その結果、「政庁西院」とも呼ぶべき官衙区画が想定されるに至った。

検出されたのは、土塁もしくは築地塀の両側に設けられたと思われる2条の溝である。これらの溝と、かつて道路舗装工事に伴う試掘調査で確認された溝SD103や政庁北辺溝及び南門との位置関係を整合的に理解するための復元案として、政庁と南北規模を同じくし、かつ院を構成する圍繞施設の存在が想起されたわけである。

「西院」並びに政庁における溝の埋土を比較したとき、異なるのは遮蔽施設側から流れ込む黄褐色土である。「西院」では細かい粒子で構成されるのに対し、政庁ではより大きなブロックが目立った。瓦の出土量の違いも歴然としており、前者では極めて少ない。遺構埋土や瓦の出土量の相違は、遮蔽施設の構造を想定する上で示唆的である。政庁で瓦葺きの築地塀が想定されるならば、「西院」では土塁もしくは瓦を使用しない上土塀などが想定できる。

伊勢国庁では46尺四方を基準とした規格が考えられてきた。政庁の南北は、北築地外溝から南門までが46尺×8単位で、東西は築地外溝を除いた部分が6単位に収まる。

#### 2. 「西院」の規格とその性格

今回想定された「西院」は、南北規模がこれまで考察されてきた政庁に一致するので、政庁と同じく南北は46尺×8単位となる。では、東西規模や、区画内部に含まれる建物SB91はどうであろうか。「西院」の西辺を構成する2条の溝SD104・105やその間に想定される遮蔽施設と46尺方格との明確な一致は認められない。ただし、46尺を2等分割した規格を想定すると、外側の溝SD105の東辺部における一致の可能性はある。その位置は政庁の中軸線から8.5単位西に相当する。建物SB91は、基礎地形の一部と足場穴と思われる小穴を留めていた瓦葺礎石建物である。柱位置や基壇縁を示唆する情報がほとんど得られていない中、小穴と溝との関係から4×7間の東西棟

建物が想定された。周囲には瓦を多く含む溝が伴う。未検出部も含めて46尺方格との関連を見いだすとすれば、溝の北辺が46尺方格に一致し、東・西・南辺はその2等分線上に相当する可能性を考えておきたい。

Fig. 1は、政庁並びに「西院」の平面プランと46尺方格との関係を既存データをもとに想定した模式図である。当然図示したもの以外に未発見の構造物が予想され、既存データについても不明確な点が多いので、今後の調査の進展によってはさらに追加・訂正がなされるであろう。

「西院」の機能や性格について直接的に物語る資料は皆無である。政庁に隣接して統一的な規格のもとに計画され(註1)、政庁に比肩する高い格式を有していたという理解が正しければ、政庁の機能を一部分掌し、補完する施設であったと想像される。

#### 3. 竪穴住居と掘立柱建物の発見

政庁北西に近接する部分は、土器類の散布が極めて少ない当遺跡にあって比較的密な分布が認められ、国府を支える実務的官衙が想定できる地点として注目されてきた。検出された竪穴住居ST106は遺物から8世紀後半代のものと考えられ、掘立柱建物SB113には遺物がほとんど伴わない。

ST106は平面計画に際し、北・南辺と西・東辺とでそれぞれ異なる基準により制約を受けていたものと考えられる。すなわち座標方位に近い北辺・南辺は政庁をはじめとする国府諸施設(註2)が規範となり、西辺・東辺にはSB113の建物方位と何らかの共通性が感じられる。この時期に一般的な同種遺構よりも一回り大きな規模を有することから一般集落との相違が指摘でき、黒漆状の付着物が認められる須恵器の出土などから工房あるいは工房関連施設であった可能性もある。出土した鬼瓦は床面出土ではないので、故意に持ち込まれたものか否か不明であるものの、中心施設の荒廃を示唆する。

掘立柱建物SB113A・Bは、東西規模で20mを超える大型のものである。柱間は、SB113Aが桁行・梁行ともに10尺等間と考えられ、SB113B桁行と庇梁行が10尺、身舎梁行が11尺で計画されたものと思わ



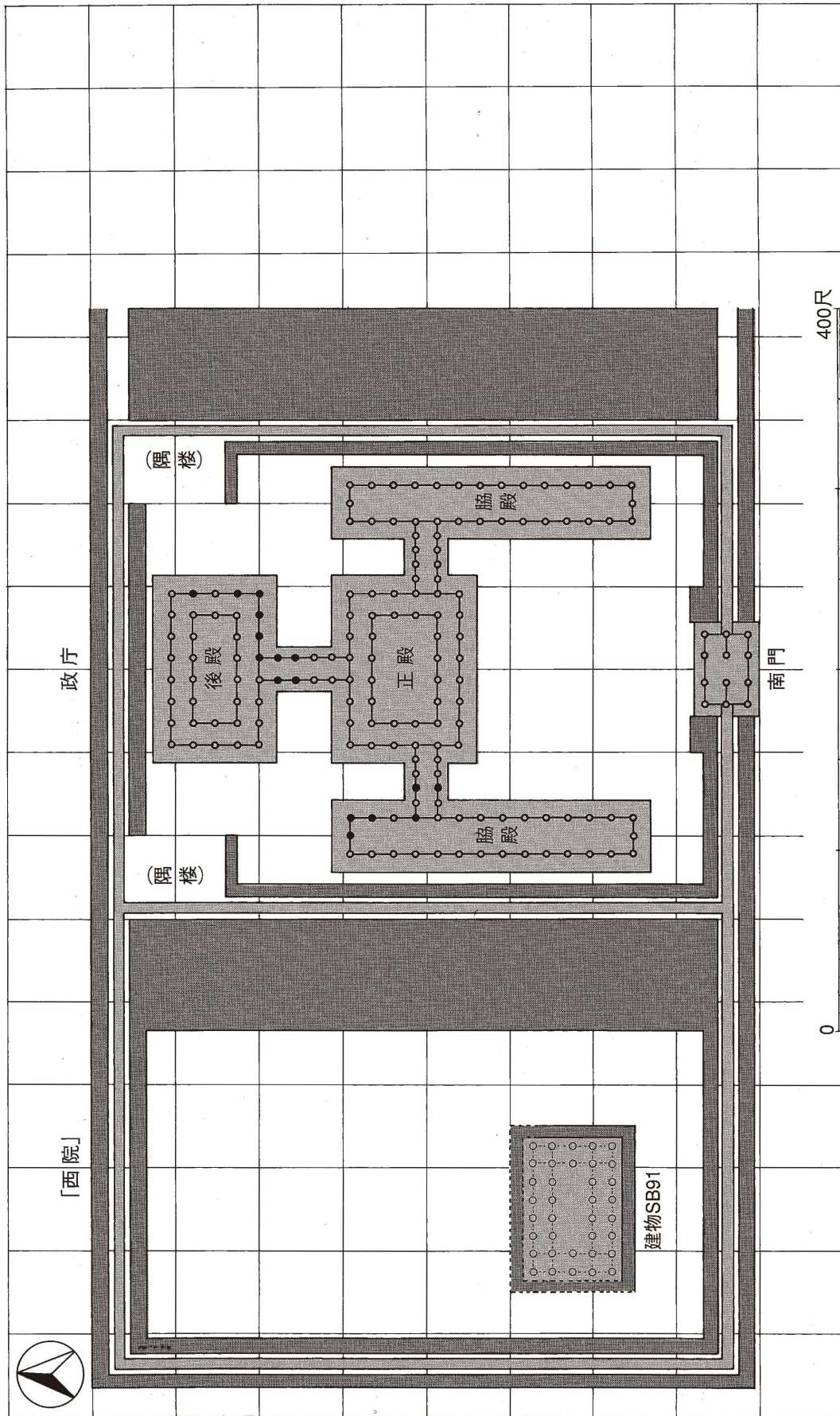


Fig.1 政庁の建物配置 (1:1000)



れる。実際の個々の柱間には若干のばらつきが見られるが、桁行及び梁行全体では整数尺での理解が可能である。想定される基準尺は、柱穴No.1-8間でほぼ小尺(0.29636m)に等しい値が想定でき、その他では、No.49-56間で1mm増、No.4-32, 6-34, 7-35, 8-36, 17-20, 37-44間で3mm増、No.2-30, 3-31, 5-33間で4mm増など、小尺よりやや大きめの値が得られる。こうした分散のありかたは施工方法やその精度を反映したものと思われるが、これらの建物に用いられた基準尺自体の実態にも関係があるかもしれない。

SB113A・Bは、ともに柱間が10尺または11尺であるのにもかかわらず、柱痕が小さいことや、建物内部に棟持ちあるいは床束状の柱を有するなど顕著な特徴を有している。このような建物は嶋根郡衙関連あるいは居宅と想定されている芝原遺跡(島根県松江市)の例や上人ヶ平遺跡(京都府相楽郡木津町)の瓦製作工房とされる建物に類例を見いだすことができる。芝原遺跡では、桁行方向に並んで検出されており、棟持ち柱と想定されている(松江市教育委員会1986)。上人ヶ平遺跡の例では、床束説と棟持ち柱説について検討が加えられ、建物規模に対する柱の貧弱さから大棟の直下に設けられた補助柱とされ、後者の説が支持されている(石井・伊賀他1991)。長者屋敷遺跡における今回の事例も、柱間及び柱痕の特徴や身舎中央を桁行方向にほぼ等分する柱穴のありかた、さらには梁行方向の柱筋には一致しないことなどから大棟の加重を分散させるための棟持ち柱であると見なしたい。

さて、これらの掘立柱建物はいかなる性格・機能を有するものであろうか。立て替え後のSB113Bには柱穴の形状・規模の面で、より新しい要素が感じられる。8世紀後葉に位置づけられるST106とSB113A・113B・115との平行関係あるいは前後関係は詳細にし得ないが、大略8世紀後葉から9世紀前葉までに収まるものと考えることができる。一方、長者屋敷遺跡における国府政庁やその他の建物の下限は9世紀初頭と考えられてきた。掘立柱建物はその構造から考えて、国府の中核とは関連が薄い施設で、建物方位の違いは他の諸施設との同時性を否定する要素と云える。先述の時期推定が正しければ、当遺跡

における国府廃絶さらには他所への移転に際して一時的な利用に供された施設と考えることが可能である。

#### 4. その他の遺構

6AID-C・H区で確認された南北溝SD112の南延長線上には、前回の調査で見つかったSD88がある。SD112は政庁の外郭を構成する区画溝であったとも考えられ、政庁東隣においては「西院」に対応する区画があった可能性も考えられる。検出遺構からは、「西院」のような遮蔽施設が確認できないので、単条の溝からなる区画を想定したい。

溝による区画としては、道路改良工事に伴う遺跡北西部の調査によってその存在が指摘された方格地割がある(註3)。溝SD112はその位置や規模から方格地割とは異質のものと思われ、付近からも方格地割に相当する遺構の検出はなかった。ただし、未施工でありながら、平面計画のみが存在し、かつその計画に規制されていた可能性まで否定し去ることも容易ではない。方格地割は、遺跡北半に限定施工され、未完成部分の存在も窺える。遺跡南半に位置する政庁及びその周辺官衙との関連は今のところ稀薄であると云えよう。

註1. 西院西辺溝では政庁タイプ、建物SB91では非政庁タイプの瓦が出土することに対する検討は今後の課題としたい。

註2. 政庁西脇殿の礎石抜き取り痕からおおよそではあるが、N1°11'Wの建物方位が想定できる。その他南野地区や長塚地区で検出された建物も座標方位に近いN0~1°Wと考えられている。

註3. 宇河1996・1997。なおその問題点については新田1999・2000で触れられている。

#### 〔参考文献〕

- 石井清司・伊賀高弘他1991『京都府遺跡調査報告書第15冊上人ヶ平遺跡』(財)京都府埋蔵文化財研究センター  
宇河雅之1996「長者屋敷遺跡」『長者屋敷遺跡・峯城跡・中富田西浦遺跡』三重県埋蔵文化財センター  
宇河雅之1997「伊勢国府の方格地割—その存在の可能性と意義—」『研究紀要第6号』三重県埋蔵文化財センター  
新田剛1999『伊勢国府跡』鈴鹿市教育委員会  
新田剛2000『伊勢国府跡2』鈴鹿市教育委員会  
松江市教育委員会1986『芝原遺跡』  
山中敏史1994『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房

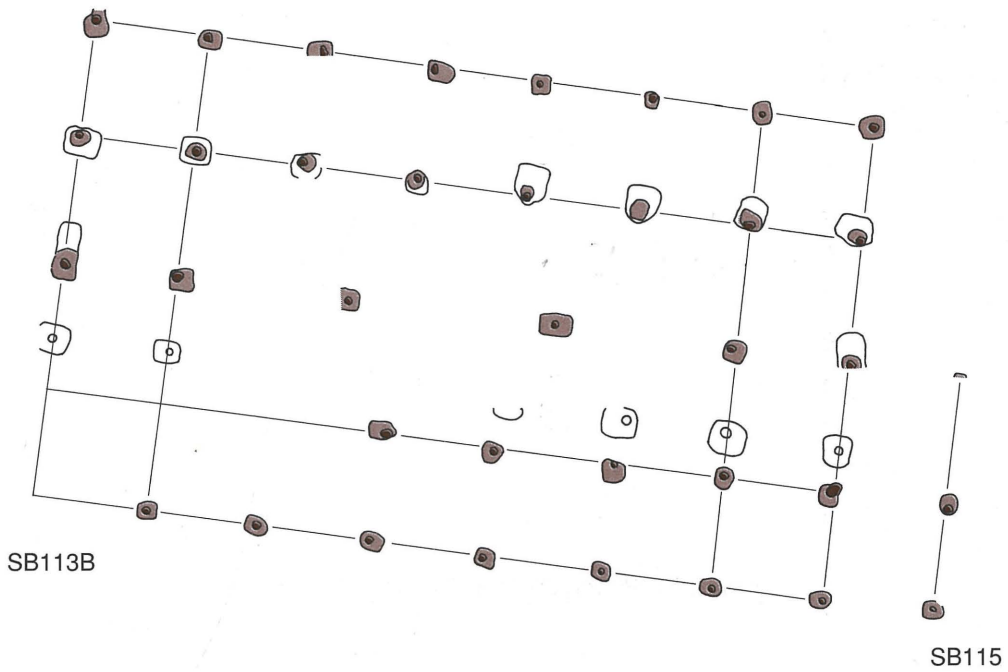
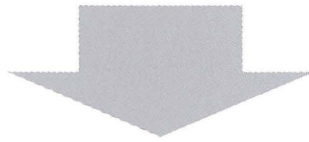
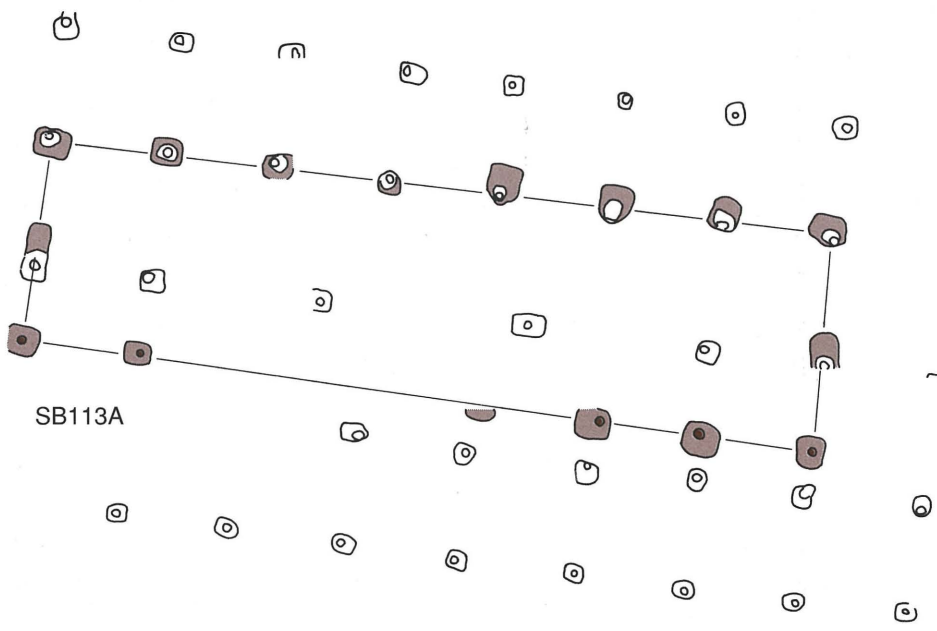


Fig.2 掘立柱建物の変遷 (1:200)



# Ise Kokufu Site -Preliminary Report No. 3 -

## Contents

Introductory remarks		Chapter III Conclusions	
Chapter I Introduction	1	1. Western division of <i>kokucho</i>	4
Chapter II Structural features and artifacts		2. Structure and layout of <i>kokucho</i>	4
1. Standard layers	2	3 Pit-dwelling and <i>hottatebashira</i> building 掘立柱建物 (supported by columns directly planted into the ground)	4
2. West area of <i>kokucho</i> 国庁 (provincial government centre)	2	4. Other structural features	5
3. Northwest area of <i>kokucho</i>	2	English table of contents and summary	8
4. Northeast area of <i>kokucho</i>	2		

## Figures

1. Square grid pattern and the distribution of features of <i>kokucho</i> and its west side	5	2. Development of the layout of <i>hottatebashira</i> buildings	6
--	---	--	---

## Tables

1. List of the seat and area of excavations	i	3. List of excavations	2
2. Structural features	ii	4. Abstract	29

## Plates

1. Map of sites around of Ise Kokufu 伊勢国府	9	15-3. Cross-section of ditches SD104 and SD105, from north	25
2. Topography of the excavated area	10	15-4. General view of the excavated area 6AHE-B, from northeast	25
3. Map of the excavated area	11	15-5. Conference of supervisors, from east	25
4. Plans of excavated Areas 6AHI-C and 6AHI-F	13	16-1. Pit-dwelling ST106, from west	26
5. Plans of ditches SD104, SD105 and SD114	14	16-2. Oven of pit-dwelling ST106, from west	26
6. Sections of ditches SD104, SD105 and SD112	15	16-3. Ditch SD112, from west	26
7. Plan of excavated area 6AHE-B	16	16-4. Cross-section of ditch SD104, from southeast	26
8. Plans of excavated areas 6AID-C, 6AID-D, 6AID-E and 6AID-H	17	16-5. Excavation at the northeast of <i>kokucho</i> , from northwest	26
9. Plan of pit-dwelling ST106	18	17-1. <i>Hottatebashira</i> building SB113, from east	27
10. Plans and sections of buildings SB113A, SB113B and SB115	19	17-2. <i>Hottatebashira</i> building SB113, from west	27
11. Sections of pit-dwelling ST106 and pillar pits	21	18-1. Excavation at the northeast of <i>kokucho</i> , from east	28
12. Round tile, concave tile, ornamental ridge-end tile, <i>haji</i> pottery 土師器, and <i>sue</i> pottery 須恵器	22	18-2. Post holes No.10 and 50, from north	28
13-1. Ditches SD104 and SD105, from northeast	23	18-3. Cross-section of the post hole No.8, from east	28
13-2. Sections of ditches SD104 and SD105, from north	23	18-4. Field trip, from west	28
14-1. Section of ditch SD105, from north	24	18-5. Concave tile	28
14-2. <i>Sue</i> pottery from ditch SD104, from east	24	18-6. Ornamental ridge-end tile	28
15-1. Ditch SD114, from northeast	25	18-7. Round tile	28
15-2. Distant view of ditches SD104 and SD105, from east	25	18-8. <i>Haji</i> and <i>sue</i> pottery	28

## Summary

This preliminary report summarizes the results of investigations of Ise-kokufu 伊勢国府 provincial office site, also called Choja-yashiki 長者屋敷 site, in the 2000 Fiscal year. This site is located at the left terrace of the Anraku River and annexed to Hirose-cho, Suzuka City, Mie Prefecture, Japan.

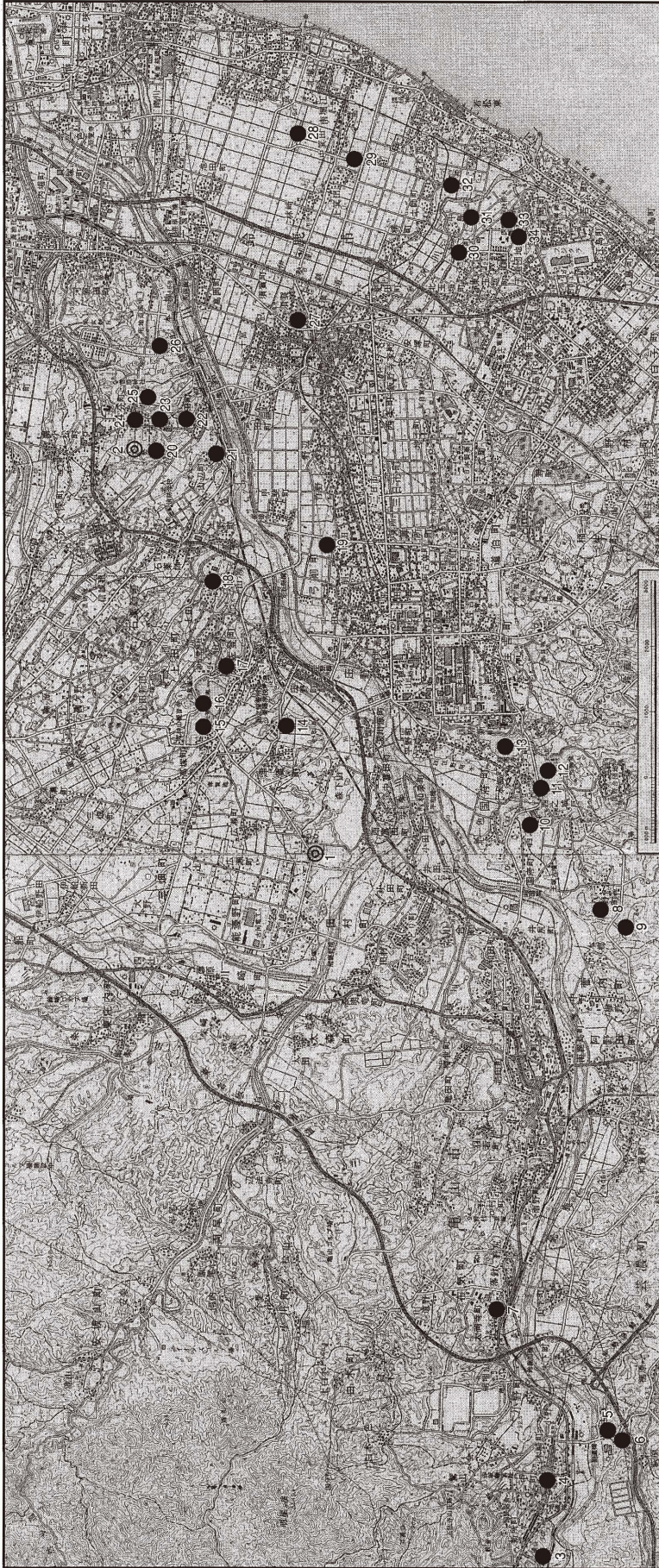
This site has been excavated since the 1992 fiscal year by the Suzuka city board of education. The provincial government centre (*kokucho* 国庁) was discovered at the southern part of it and the other governmental offices (*zoshi* 曹司) were found at the north. They seem to have existed from the late Nara period to the early Heian period (ca.750-800). This excavation was carried out at west, northwest and northeast sides of *kokucho*.

At the west side, three ditches SD104, SD105 and SD114 were discovered. These ditches are considered both gutters on the earthen wall around building SB91 founded out in the last investigation, which features are supposed a supplementary establishment of the *kokucho* on the same scale, approximately 109×75m in plan.

At the northeast side, we found out a pit-dwelling with an oven ST106, three *hottatebashira* buildings 掘立柱建物 (supported by columns directly planted into the ground) SB113A, SB113B and SB115 and a ditch SD112. The pit-dwelling was 5.6×5m in plan. The *hottatebashira* building SB113A was 6×21 m in plan and the *hottatebashira* building SB113B was 12.6×21 m. The later was reconstructed to the former. These features are considered lumber camps related to the Ise-kokufu provincial office.

At the northwest, no features were found.





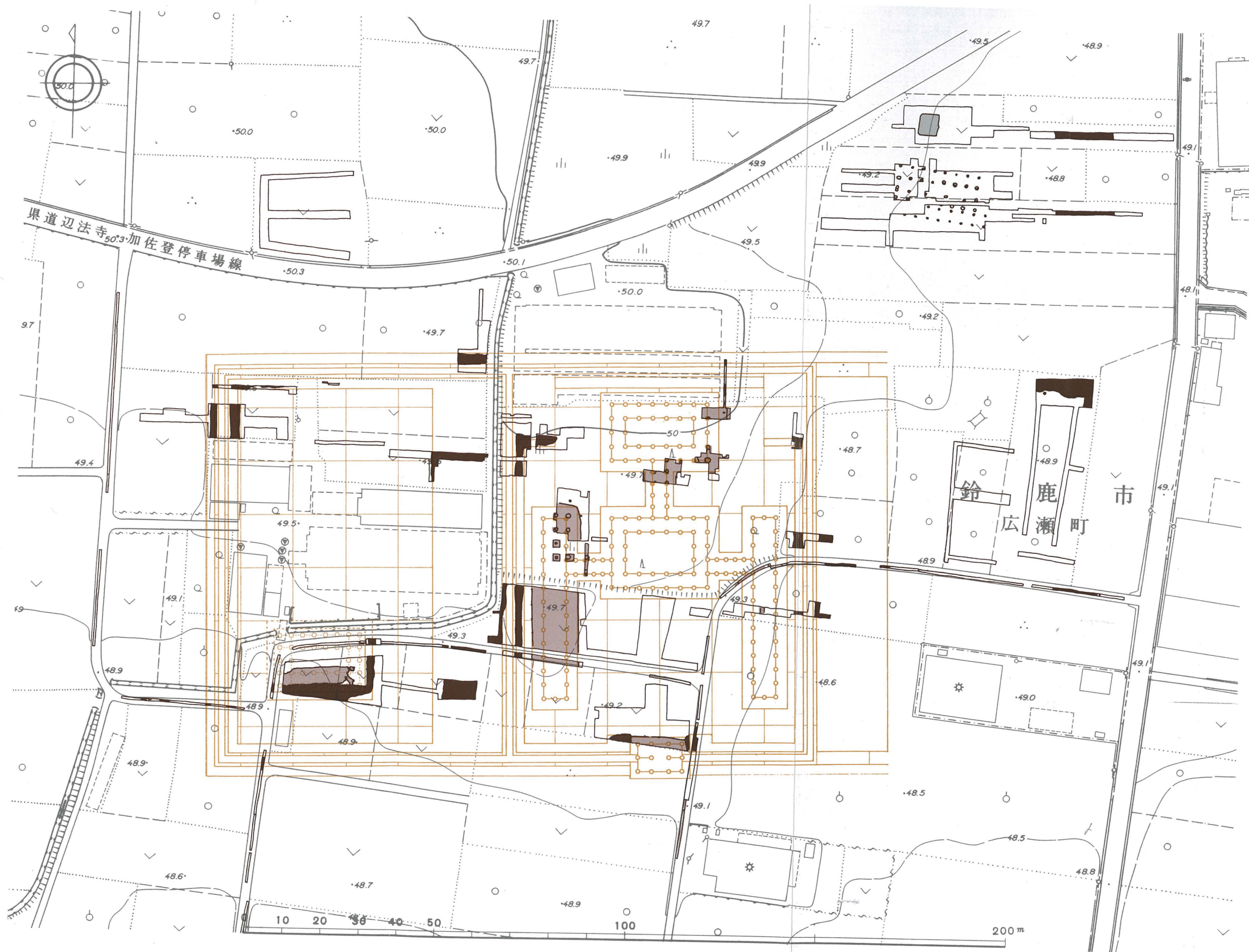
周辺の遺跡 (1 : 100,000)

- |                      |                         |                   |          |            |
|----------------------|-------------------------|-------------------|----------|------------|
| 1. 伊勢国府跡<br>(長者屋敷遺跡) | 8. 八野遺跡                 | 16. 北野古墳          | 23. 南浦遺跡 | 30. 深田遺跡   |
| 2. 伊勢国分寺跡<br>(僧寺推定地) | 9. 八野瓦窯跡                | 17. 川原井遺跡・瓦<br>窯跡 | (大鹿廃寺)   | 31. 双ツ塚遺跡  |
| 3. 観音沖遺跡             | 10. 国府A遺跡               | 18. 山の原遺跡         | 国分遺跡     | 32. 土師南方遺跡 |
| 4. 鈴鹿関推定地            | 11. 三宅神社遺跡<br>(伊勢国府推定地) | 19. 岡田遺跡          | (尼寺推定地)  | 33. 天王遺跡   |
| 5. 古厩遺跡              | 12. 天王山西遺跡              | 20. 狐塚遺跡          | 国分東遺跡    | 34. 天王屋敷遺跡 |
| 6. 切山瓦窯跡             | 13. 梅田遺跡                | (河曲郡衙跡)           | 寺山遺跡     |            |
| 7. 大鼻遺跡              | 14. 津賀平遺跡               | 山辺瓦窯跡             | 須賀遺跡     |            |
|                      | 15. 大欠積石遺跡              | 21. 木田坂上遺跡        | 大木ノ輪遺跡   |            |
|                      |                         | 22. 上箕田遺跡         | 上箕田遺跡    |            |









調査区位置図 (1:1000)



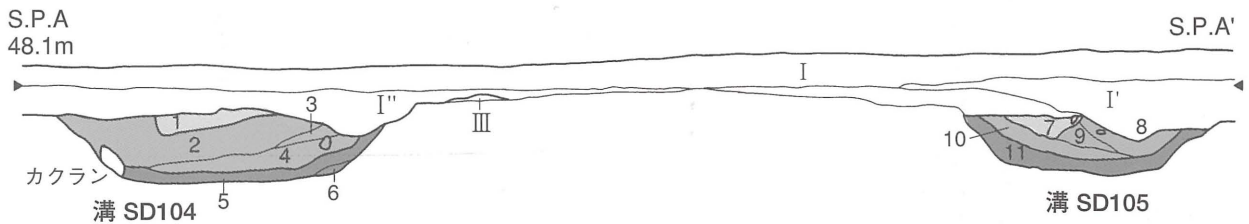


6AHI-C·F区 平面图 (1:300)

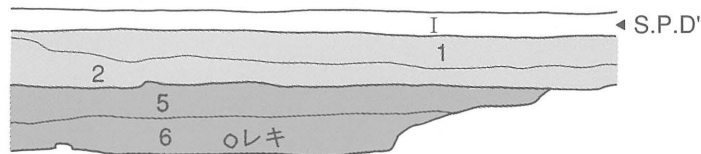
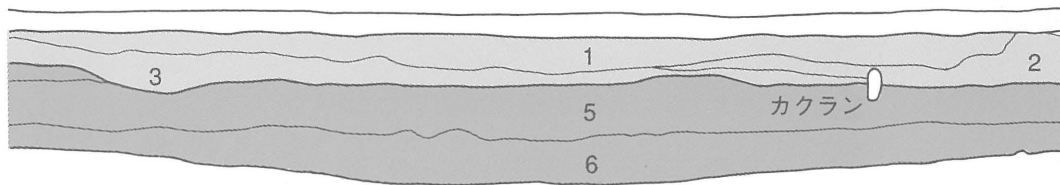
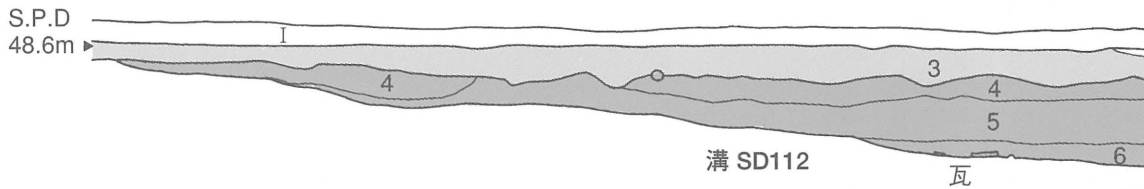


溝 SD104・105・114 平面図 (1 : 100)





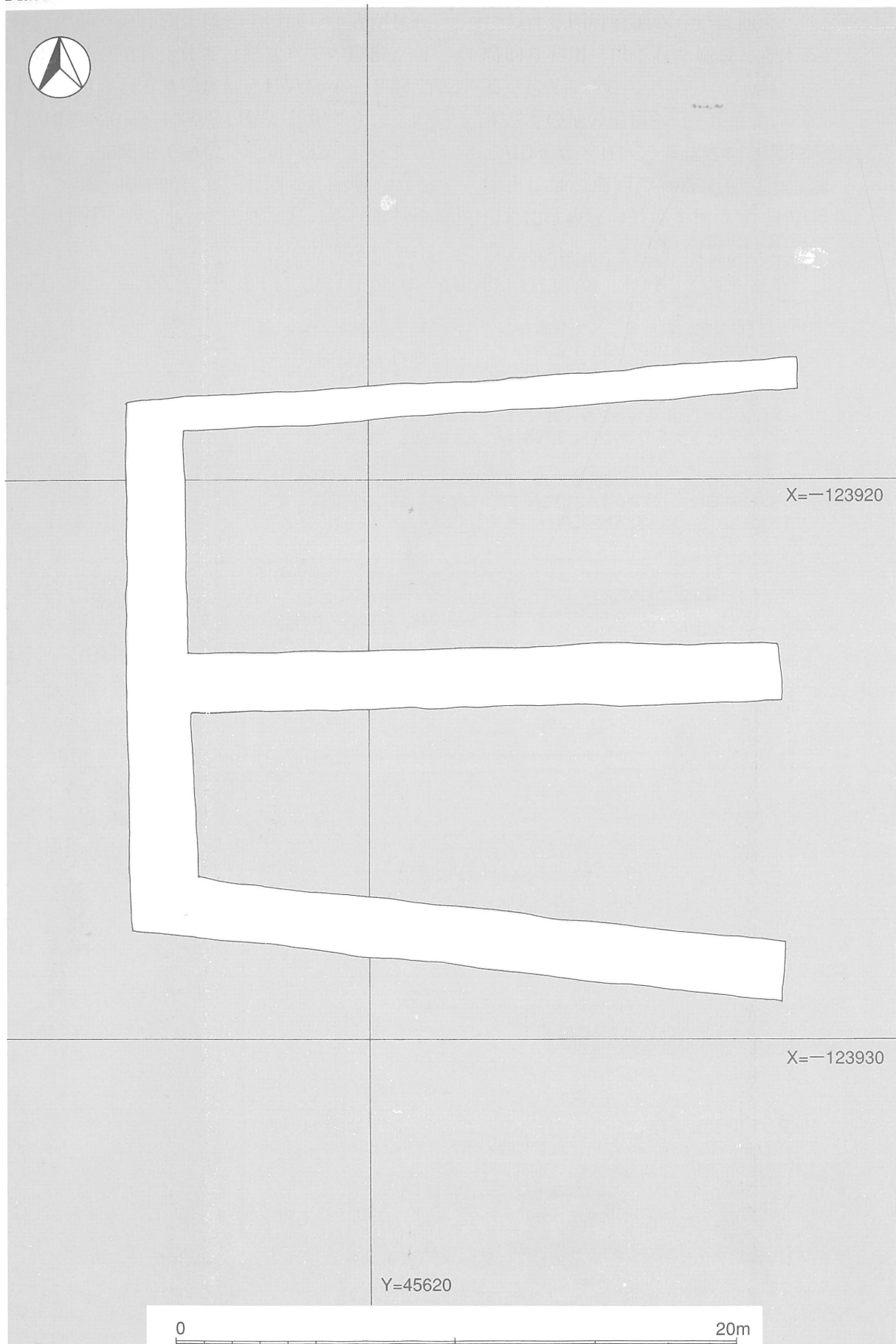
- I . 10YR3/1黒褐色. 耕作土
- I' . 10YR3/1黒褐色. 耕作土. 10YR1.7/1含む
- I'' . 10YR3/1黒褐色. 耕作土. 10YR1.7/1・10YR4/6・10YR1.7/1含む
- 1 . 10YR2/1黒色. しまりが無い
- 2 . 10YR1.7/1黒色. 瓦片をごく少量含む. 下位から須恵器小壺 (Plate12) 出土
- 3 . 10YR3/1黒褐色. 10YR4/6を少量含む
- 4 . 10YR3/1黒褐色. 10YR4/6・2.5Y5/6・10YR1.7/1を多く含み, 全体に黄褐色を呈す
- 5 . 10YR1.7/1黒色. 2.5Y5/6を少量含む
- 6 . 10YR1.7/1黒色. 2.5Y5/6を多く含む
- 7 . 10YR2/1黒色. しまりが無い. 10YR4/3・10YR4/6を少量含む
- 8 . 10YR1.7/1黒色. 礫多い
- 9 . 10YR3/1黒褐色. 10YR4/6少量含む. 礫含む
- 10 . 10YR3/1黒褐色. 10YR4/6・2.5Y5/6多く含む. 礫多い. 土師器・瓦片含む
- 11 . 10YR1.7/1黒色. 2.5Y5/6少量含む. 瓦片含む



- I . 10YR3/1黒褐色. 耕作土
- 1 . 7.5YR2/1黒色. しまりが無い. 近世以降の遺物含む
- 2 . 7.5YR3/1黒褐色. しまりが無い. 近世以降の遺物含む
- 3 . 7.5YR2/1黒色. しまりが無い. 近世以降の遺物含む
- 4 . 7.5YR2/1黒色. しまりが有る. 瓦を含む
- 5 . 7.5YR3/1黒褐色. しまりが有る. 瓦を含む
- 6 . 7.5YR3/2黒褐色. 非常にしまりが有る. 底に瓦を含む

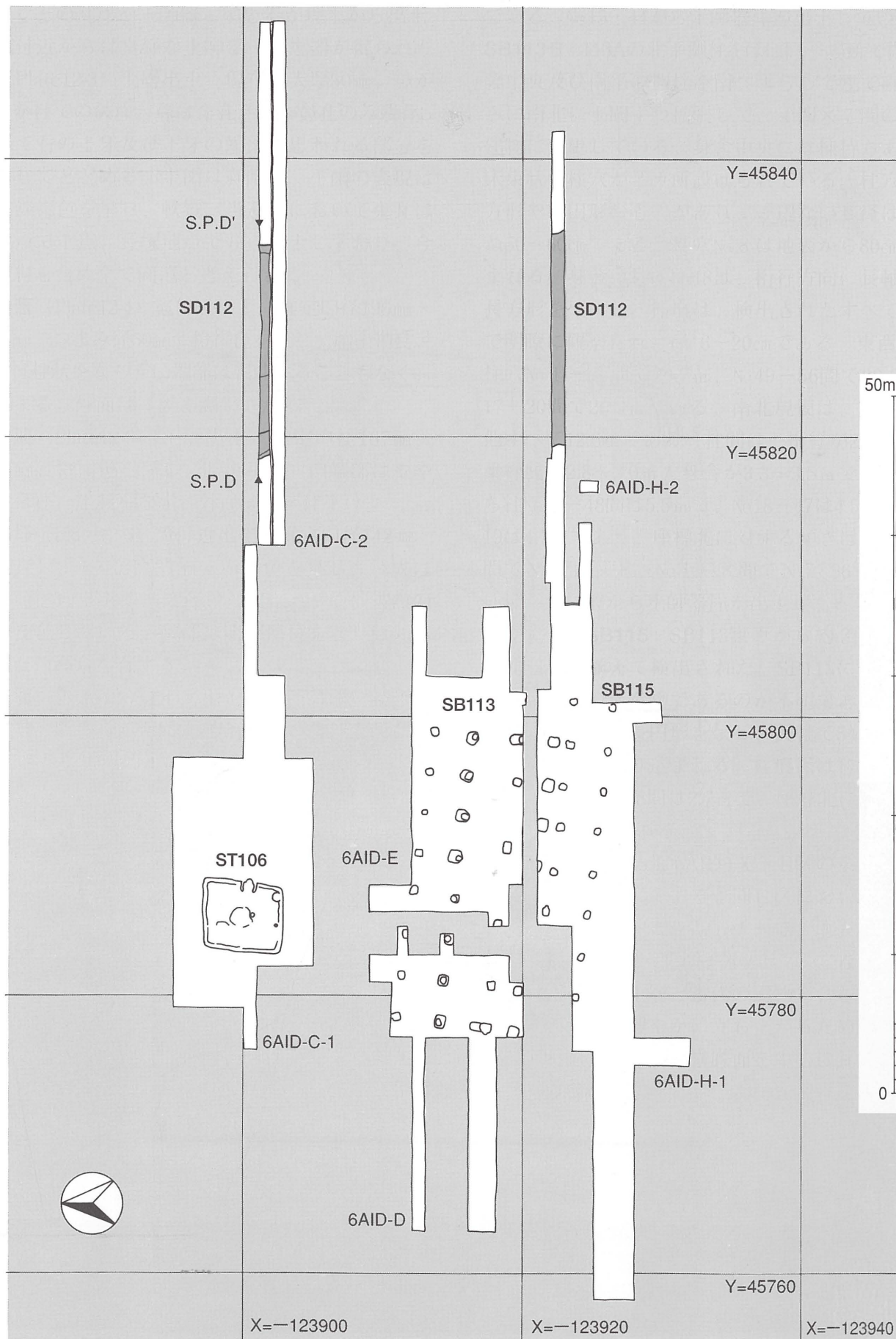


溝 SD104・105・112 土層断面図 (1:50)



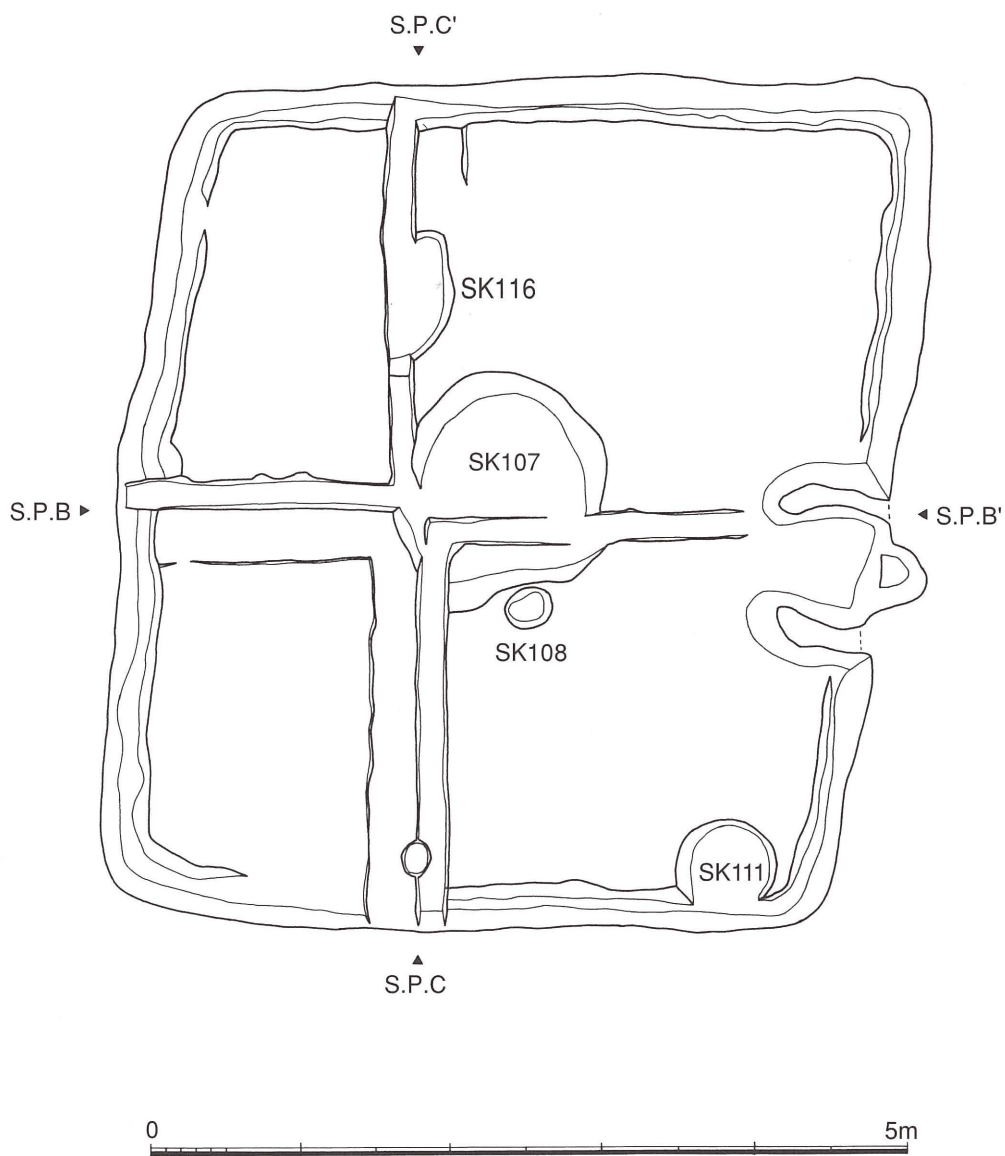
6AHE-B区 平面图 (1:200)





6AID-C·D·E·H区 平面図 (1:400)

X=-123895



X=-123905

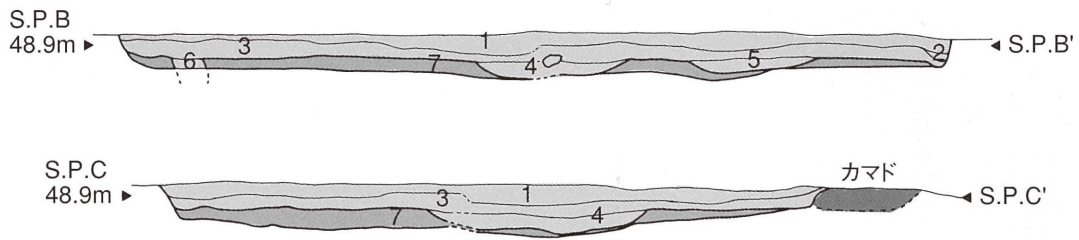
Y=45785

竪穴住居 ST106 平面図 (1:50)



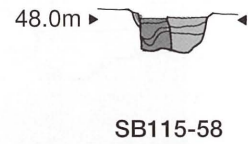
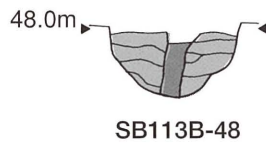
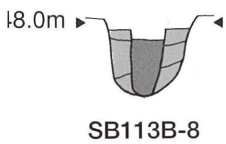
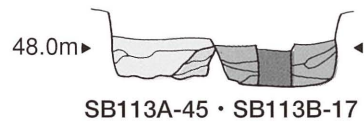
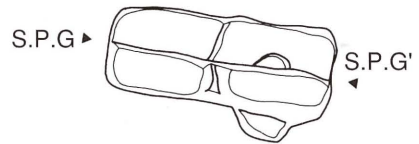
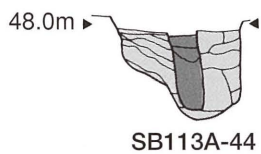


掘立柱建物SB113A・B・115 平面図・断面図 (1:80)



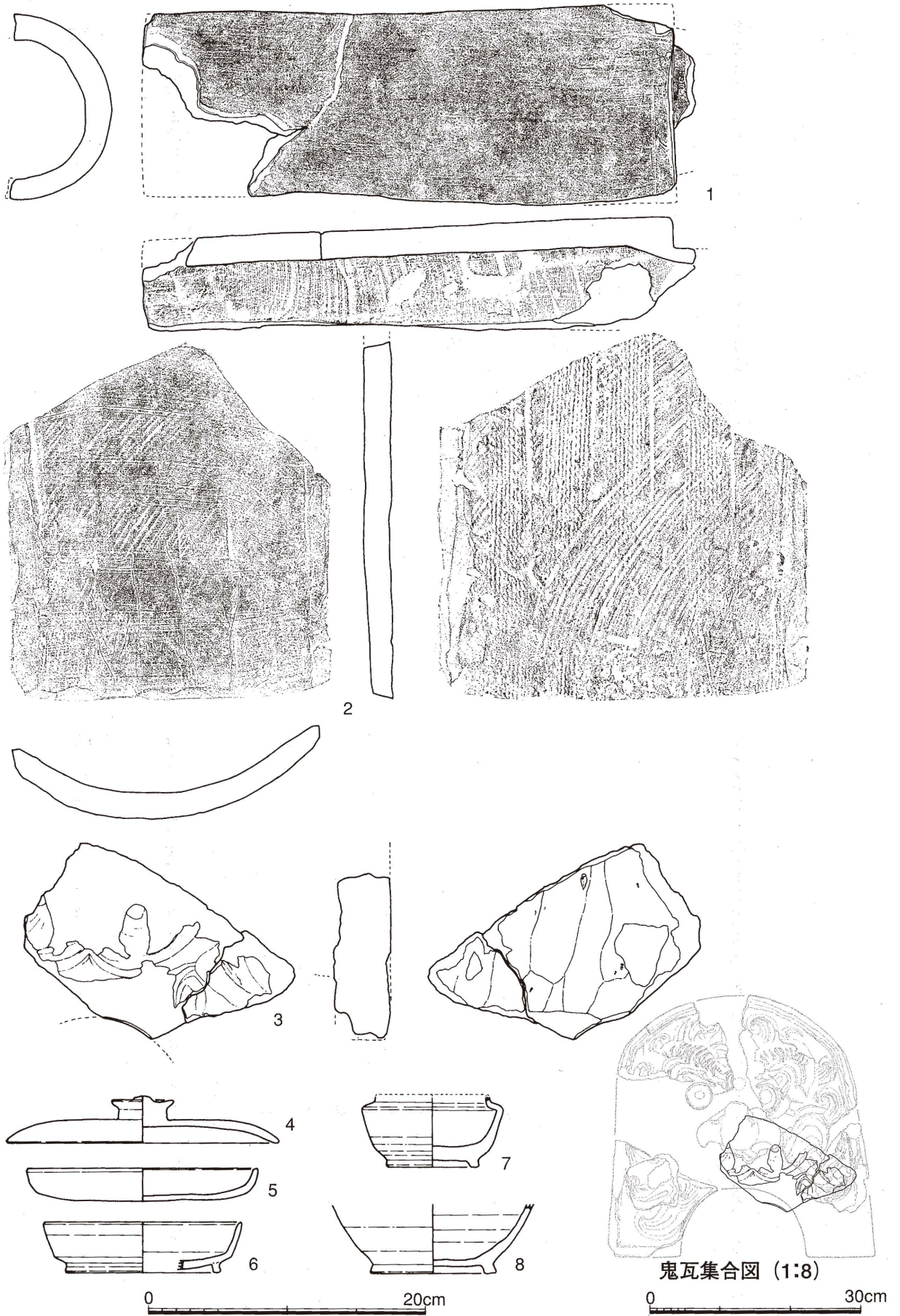
竪穴住居 ST106

1. 7.5YR2/1黒色. 瓦片多く含む
2. 7.5YR1.7/1黒色.
3. 7.5YR1.7/1黒色. 10YR5/4含む. 瓦少量含む
4. 10YR3/2黒褐色. 10YR5/4・7.5YR4/4含む. 土師器片・炭化物含む
5. 10YR3/2黒褐色・10YR5/4にぶい黄褐色・7.5YR4/4褐色
6. 7.5YR3/1黒褐色. 10YR5/4含む
7. 10YR5/4にぶい黄褐色・7.5YR5/4にぶい褐色



竪穴住居 ST106・掘立柱建物柱穴土層断面図 (1:50)





丸瓦(1)・平瓦(2)・鬼瓦(3)・土師器(4・5)・須恵器(6~8) (1:4)





1. 溝 SD104・105 北西から



2. 溝 SD104 土層断面 北から





1. 溝 SD105 土層断面 北から



2. 須恵器小壺出土状況 東から





1. 溝 SD114 検出状況 北東から



2. 溝 SD104・105 遠景 東から



3. 溝 SD104・105 土層断面 北から



4. 6AHE-B区 北西から



5. 指導委員会 東から





1. 竪穴住居 ST106 西から



2. 竪穴住居 ST106 竈 西から



3. 溝 SD112 西から



4. 溝 SD112 土層断面 南東から



5. 6AID-H 作業風景 北西から





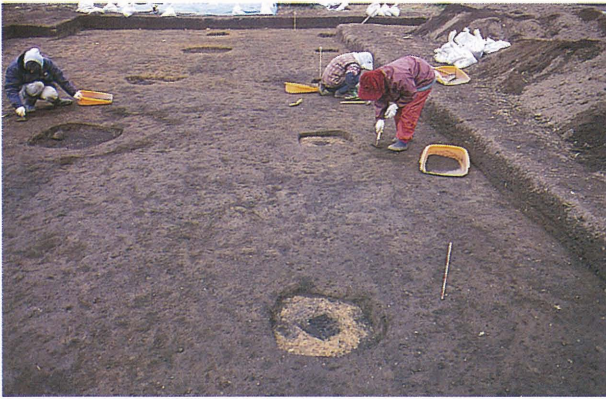
1. 掘立柱建物 SB113 東から



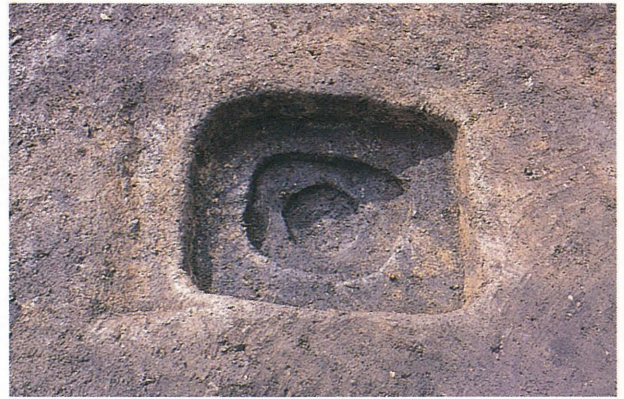
2. 掘立柱建物 SB113 西から



Plate18



1. 6AID-E区作業風景 東から



2. 柱穴 No.10・50 北から



3. 柱穴 No.8断ち割り 東から



4. 現地説明会 西から



5. 平瓦



6. 鬼瓦



7. 丸瓦



8. 土師器・須恵器



Tab. 4

## 報告書抄録

ふりがな	いせこくふあと3							
書名	伊勢国府跡3							
編著者名	にった つよし 新田 剛							
編集機関	鈴鹿市教育委員会 鈴鹿市考古博物館							
所在地	〒513-0013 <sup>すずかし こくぶちょう</sup> 三重県鈴鹿市国分町 224 番地 TEL 0593(74)1994							
発行年月日	西暦 2001年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
長者屋敷	ひろせ なかおこし 広瀬町字中起 1226番・1229番1・ あらこ 荒子1018番1・ 1020番1・1017番・ 1016番・1013番1	24207	363	34° 52' 49"	136° 30' 00"	20001001	1,142.8㎡	学術調査
						20010311		
種別	おもな時代	おもな遺構		おもな遺物		特記事項		
官衙	奈良・平安	溝・竪穴住居 ・掘立柱建物		土師器・須恵器 ・丸瓦・平瓦・ 軒丸瓦・鬼瓦		第12次調査。伊勢国府跡。 政庁の西方からは院を構成する溝が、北東からは竪穴住居・掘立柱建物が検出された。		



---

## 伊 勢 国 府 跡 3

---

発 行 日 2 0 0 1 年 3 月 3 1 日  
編 集 ・ 発 行 鈴 鹿 市 教 育 委 員 会  
鈴 鹿 市 考 古 博 物 館  
〒 5 1 3 - 0 0 1 3  
三 重 県 鈴 鹿 市 国 分 町 2 2 4 番 地  
TEL 0 5 9 3 ( 7 4 ) 1 9 9 4  
FAX 0 5 9 3 ( 7 4 ) 0 9 8 6  
e-mail : kouko@city.suzuka.mie.jp  
URL : <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum>  
印 刷 早 川 印 刷 株 式 有 限 公 司

---

# Ise Kokufu Site

Preliminary Report No.3

March, 2001

Suzuka City Board of Education, Mie Pref., Japan